

昭和五十三年三月招集

第一回館山市議定会定例会會議録第一号

館山市議會

目次

日時	一
場所	一
出席議員	一
欠席議員	一
出席説明員	一
出席事務局職員	二
議事日程	二
開會	三
議長の報告	三
議案の配付	三
会議録署名議員の指名	三
会期の決定	三
会議日程の決定	四
議案第二十七号	四
議案第三号乃至議案第二十六号	五
(施政方針並びに提案理由の説明)	五
延会	一五
本日の会議に付した事件	一五

一、昭和五十三年三月三日(金曜日)午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一番 吉田 勇治郎	二番 伊藤 幸太郎
三番 穴戸 寿夫	四番 押元 稔
五番 黒川 平治	七番 本間 昭二
八番 松下 正己	九番 鈴木 稔
一〇番 流山 源次郎	一番 近藤 好雄
一二番 栗原 一雄	一番 林 豊
一四番 石井 輝久	一番 辻田 実
一六番 安西 益男	一番 石井 武敏
一八番 渡辺 軍治郎	一番 渡辺 昭夫
二〇番 和田 一郎	二番 五十嵐 昇
二二番 菊井 敏博	二番 西村 真次
二四番 伊賀 多朗	二番 藤田 益治
二六番 石井 正	二番 望月 照正
二八番 山口 康	
三〇番 三三	

一、欠席議員 三名

六番 鈴木 正義	二一番 田中 禄郎
二七番 遠山 ヨネ子	

一、出席説明員

市長 半沢 良一	助役 吉野 茂樹
収入役 長谷川 広治	市長公室長 小倉 澄男
人事課長 太田 博雄	庶務課長兼選挙管理 網島 憲治
財政課長 山田 俊康	委員会事務局書記長 吉田 清一
	市民課長 吉田 清一

稅務課長 齊藤武男 収納課長 高山隆男
 商工鑑光課長 中村正雄 農水産課長 佐野甲子郎
 保健課長 吉岡政雄 衛生課長 石井謀
 建設課長 飯田治男 社会開発課長 山口一
 鳩山莊支配人 飯田忠男 福祉事務所長 越路良夫
 水道課長 大嶋重義 教育課長 安田豊作
 兼衛生課主幹
 教育委員 沙崎政光 教育委員 黒川邦保
 庶務施設課長
 教育委員會 川名備 監査事務局長 横溝功
 社教文化課長
 農業委員會 石原齊
 事務局 長

一、出席事務局職員

事務局 長 高尾豊 事務局 長補佐 石井敏夫
 書記 兵藤恭一 書記 鈴木木哲
 書記 庄司徹 書記 福田英雄

一、議事日程(第一号)

昭和五十三年三月三日午前十時開議

日程第一 會議錄署名議員の指名

日程第二 会期の決定

日程第三 會議日程の決定

日程第四 議案第二十七号

館山市附屬機關設置条例の一部を改
 正する条例の専決処分の承認につい
 て

議案第三 三号 昭和五十三年度館山市一般会計予算
 議案第四 四号 昭和五十三年度館山市国民健康保険
 特別会計予算
 議案第五 五号 昭和五十三年度館山市と畜場特別会

日程第五

計予算
 議案第六 六号 昭和五十三年度館山市国民宿舍特別
 会計予算
 議案第七 七号 昭和五十三年度館山市ユースホステ
 ル特別会計予算
 議案第八 八号 昭和五十三年度館山市学童災害共済
 事業特別会計予算
 議案第九 九号 昭和五十三年度館山市水道事業特別
 会計予算
 議案第十 十号 館山市行政組織条例の制定について
 議案第十一 十一号 館山市職員給与条例等の一部を改正
 する条例の制定について
 議案第十二 十二号 館山市消防団条例の一部を改正する
 条例の制定について
 議案第十三 十三号 館山市災害等罹災者見舞金給付条例
 の一部を改正する条例の制定につ
 て
 議案第十四 十四号 館山市国民年金印紙購入基金の設置
 及び管理に関する条例の制定につ
 て
 議案第十五 十五号 館山市社会体育施設の設置及び管理
 に関する条例の制定について
 議案第十六 十六号 館山市民生資金貸付条例を廃止する
 条例の制定について
 議案第十七 十七号 館山市奨学資金貸付条例の一部を改

正する条例の制定について

議案第 十八号

損害賠償の額の決定について

議案第 十九号

字の区域及び名称の変更について

議案第 二十号

館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号

市道路線の認定について

議案第二十二号

市道路線の変更について

議案第二十三号

昭和五十二年度館山市一般会計補正予算(第三号)

議案第二十四号

昭和五十二年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

議案第二十五号

昭和五十二年度館山市国民宿舍特別会計補正予算(第二号)

議案第二十六号

昭和五十二年度館山市ユースホステル特別会計補正予算(第一号)

開

会 午前十時開会

○議長(吉田勇治郎君) 本日の出席議員二十六名、これより昭和五十二年第一回市議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議長の報告

○議長(吉田勇治郎君) 本定例会議案審議のため、地方自治法第百二十一条の規定による出席要求に対し、お手もとに配付のとおり

り出席報告がございましたので御了承願います。

なお、監査委員より十二月乃至二月実施の監査の結果が報告されております。それぞれお手もとに配付の印刷書により御了承願います。

議案の配付

○議長(吉田勇治郎君) ただいま市長から議案並びに説明書の送付がありました。

議案並びに説明書を配付いたします。配付漏れはございませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行います。

会議録署名議員の指名

○議長(吉田勇治郎君) 日程第一、会議録署名議員の指名を行います。

八番議員松下正己君、二四番議員西村真次君、以上両君を指名いたします。

会期の決定

○議長(吉田勇治郎君) 日程第二、会期の決定を行います。本定例会の会期につき議会運営協議会の意見は本三月三日から三月二十七日までの二十五日間ということであり、三月二十七日までお諮りいたします。会期を二十五日間と定めますことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって会期は三月三日から二十七日までの二十五日間と決定いたしました。

会議日程の決定

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、会議日程の決定を行います。

お諮りいたします。お手もとに配付いたしました会議日程表は、本定例会の大体の日取り予定であります。が、議会運営協議会の意見により作成いたしました。本定例会をおおむねこの会議日程表により運びますとともに、その間議案の追加または議事の都合等によりましてその都度これを改めることにして、大体このようにいたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって会議日程は決定いたしました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第二十七号館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてを議題といたします。

議案の朗読を願ひます。

（書記朗読）

議案第二十七号 館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の専決処分の承認について

議案の内容説明

○議長（吉田勇治郎君） 説明を求めます。

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 提案理由の御説明を申し上げます。

館山市附屬機関設置条例の一部を改正する条例の専決処分の承認についてでございますが、二月の臨時市議会におきまして常任委員会の組織が変更されたことにより、館山市附屬機関として設置している各種委員会等委員構成について一部改めようとするもので、緊急招集される委員会もあることから、急遽を要するため専決処分し、これが承認を求めようとするものであります。

よろしく御審議のほどお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 説明は終了しました。

御質疑を求めます。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本案を委員会付託並びに討論を省略して採決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は承認することに決しました。

議案の上程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第三号乃至議案第二十六号を一括議題とし、これより昭和五十三年度施政方針並びに議案の提案理由の説明を求めます。

施政方針並びに提案理由の説明

（市長半沢良一君登壇）

○市長（半沢良一君） 本日、ここに三月定例市議会を招集し、昭和五十三年度一般会計及び特別会計の予算案、諸議案につきましてご審議をお願いいたすことになりましたが、開会にあたり新年度の市政運営に関する所信を申し述べたいと存じます。

ご承知のとおり我が国の経済は、激動の時期にあると申してもあえて過言ではないと存じます。石油危機の発生以後、数次にわたる政府の景気浮揚策にもかかわらず深刻な経済不況は長期化しており、加えて、円高による経済界の脅威は、雇用不安をもたらし物価のなお根強い上昇傾向とともに国民生活はもとより地方自治体の行財政にも大きな衝撃を与えたのであります。政府はこのよる経済情勢に対応して経済の安定と内需の拡大を図るべく、現在国会において審議されております昭和五十三年度の予算におきまして、公共事業費の超大型化を基調とした予算編成を行い、財政主導による着実な景気の回復を図りながら、安定成長への基盤づくりと国民生活安定の確保を図るうとしております。

顧り見れば、昭和二十二年地方自治法が施行され今年でちょうど三十年を経過したのでありますが、その間地方自治制度は、その基本的構成において大きく変ることなく今日に至り、それぞれの地域的特性を反映しながら、次第に住民に浸透してきたのであります。しかしながら、近年、生活関連施策の整備、各種福祉施策の充実等、市民生活に密着した施策の実現が強く求められております。

私は、昭和四十九年十二月市政を担当して以来満三年、人間尊重また市民生活優先を市政の根本理念として、明るく豊かな住みよい文化福祉都市の実現に向けて最善の努力をしてまいりました。この間、市議会をはじめ市民各位におかれましては、市の財政危機を乗り越えるために深いご理解とご協力を賜り、お陰をもちまして、昭和五十一年度において赤字財政を克服し、財政の健全化を基調とした行政運営を図る見通しがついたのであります。

このように、地方自治体を取り巻く諸情勢の中で迎える昭和五十三年度の地方財政は、なお厳しい状態が続くものと予想されますが、市民がこの時代に即応して何を望むかを的確に把握し、財政の健全化を堅持しつつ限られた財源の重点的かつ効率的な運営を図りながら、次の項目を主要施策とし、積極的な予算を編成いたしました。

即ち、

- 一、住みよい環境づくり
- 二、福祉社会づくり
- 三、教育環境づくり
- 四、産業の基盤づくり、であります。

以下、その主要施策の概要について順次ご説明いたします。

第一、住みよい環境づくりとして道路の整備でございますが、生活関連施設として年次計画に基づいてその整備を進めてまいりましたが、本年度も臨時地方道整備事業債等により一億四千三百万余円の道路新設改良費を計上し、地域の要望にできるだけ応え、実情に沿った整備を促進してまいります。

また、公営住宅問題につきましては、住宅不足の緩和を図るため、特に低所得者層を対象とした公営住宅の建設のため一億二千五百万余円を予算計上し、昭和二十八年に建設、老朽化が著しい那古住宅十戸を、二種中層耐火構造四階建一棟十六戸、うち四戸は福祉対策の一環として重度身体障害者のために建替えることとし、更に来年度は、一種住宅の建設を計画しております。

次に公園の整備でございますが、本市の公園施設は、城山公園外五公園で、その面積は十一・二三ヘクタールで人口一人当たり二平方メートルであります。都市公園法に基づく基準は、人口一人当たり六平方メートルであります。現在の社会環境の中で市民生活の向上、余暇時間のレクリエーション利用等、需要がたかまってまいります。これに対応するため市民のすべてが利用できるレクリエーション、スポーツ施設、仮称館山運動公園の建設を、県の都市計画事業として施行されるようかねてから要望してまいりましたところ、ようやく二カ年の調査を經まして、昭和五十三年度着工の運びとなりました。この館山運動公園は、八年乃至十年計画で総事業費は約二十七億円でございます。これに伴う市負担は約八億円程度の見込みであります。これが完成しますと地域のレクリエーション、スポーツ施設の核となり、県南唯一の本格的な施設となります。

で、更に関係機関に働きかけ、早期完成に努力していく所存でございます。なお、昭和五十三年度事業費として、国庫補助事業九千万円、県単独事業五百万円に対する市負担として二千五百万円を予算計上いたしました。

次に、上水道につきましては、第一次拡張事業が昭和五十二年度をもって完了の運びとなり、現在上水道の普及率は、三芳水道と合せ七八％となりましたが、今後の問題は、水道未設置地域で水事情の悪い館野、九重地区への給水対策であります。まず水源の確保が問題となりますので、本年度水源調査のため三百六十万円を予算計上いたしました。この水源調査の結果をまわって具体的な方針を打ち出し早期実現を図ってまいりたい所存でございます。

第二項目、福祉社会づくりとして、まず救急医療体制の整備でございますが、医師会の協力のもと現在の休日、夜間に加え、三月一日から祝祭日の診療が加わり、四月一日からは、県救急医療体制と直結すべく安房郡市に六カ所の情報システム網の整備として、医療端末機を設置し、これが運営の拠点として消防本部には回答端末機を整備され、救急患者の収容に威力を発揮されることになりました。

次に、奨学資金制度でございますが、社会に役立つ人づくりの推進を図るため、学業成績等が優れ経済的理由によって修学困難な者に対し、奨学資金の貸付を行ってまいりましたが、本年より貸付額を引き上げるとともに、新たに大学入学支度金貸付制度を設け、修学を容易にしたい所存であります。

次に、コミュニティづくりであります。前年度社会開発課に

この業務を置き、市組織内において連絡調整や部会による調査、研究を進めるとともに、現在各地域におきましてコミュニティ形成の啓蒙育成を展開しております。地域や諸団体にありましてはコミュニティ活動や組織のあり方について話し合いや研修会等が開催され、徐々ではあります、市民の理解も深まっていると確信しております。ご承知のとおり、コミュニティは地域社会における連帯意識のもとに、より良い街づくりを推進する母体であります。本年度もコミュニティづくりにつきまして、市民と一体となって啓蒙育成を進め市民参加の行政を推進してまいりたいと考えております。

第三項目、教育の環境づくりであります、学校施設関係については、年次計画により危険建物の解消及び木造建物の鉄筋、鉄骨化を図っております。本市の小、中学校校舎の現況を県全体と比較いたしますと、昭和五十二年五月一日現在においての県平均は、校舎総面積に対し、木造面積の割合は一九％、同じく老朽校舎の割合は二・一％となっております。これに対し、本市は、昭和五十三年四月一日現在、木造面積の割合が四〇・一％、老朽校舎の割合が一四・二％であります。本年度は、このような実態を踏まえて学校等の施設整備を積極的に図っていく所存であります。まず、校舎関係の文部省補助対象事業といたしまして、館野小学校校舎及び同幼稚園園舎の改築、北条小学校校舎増築並びに九重小学校屋内運動場改築、また、防衛施設庁補助対象事業として那古小学校及び西岬中学校改築を実施いたします。以上、学校等整備事業費として、六億一千九百九十九万余円を予算計上いたしました。なお、船形小学校校舎及び同幼稚園園舎改築につきまして

は、防衛施設庁の補助の見通しがつき次第予算化してまいりたいと考えております。

次に、学校プールでございますが、文部省補助対象事業として館山小学校、房南中学校に新設するため、六千九百十万余円を予算計上いたしました。これが完成しますと建設計画のうえて未設置校は第一中学校のみとなります。

次に、社会体育関係につきましては、市民の体力づくりの場として、第二中学校内に文部省補助で市民体育館を建設いたします。また、市民運動場を整備するとともに、学校体育施設を広く開放し、市民総スポーツ運動を推進してまいります。このため一億三千九百七十余円を予算計上いたしました。

第四項目、産業の基盤づくりでございますが、まず、農業につきましては、農業経営の根幹である基盤整備については、昨年度に引き続き興宮ほ場整備事業として本市の東部、西部地区を、また、農村集落の基盤づくりともいべきすべての農家の参加によるむらぐるみ農業を推進し、農家の連帯と協力のもとに自主的意向により樹立された計画をくみとり、これに対応した各施策を講ずるとともに、もっとも地域からの要望の多い用排水路の整備、農道の整備、小規模土地改良事業等に対する助成、また、境川及び巴川の護岸工事、これらの事業費として三千九十五万円を予算計上し、農業の振興を図ってまいります。

次に、水産関係でございますが、農業振興と同様に、第一次既存産業として極めて重要な地位にあります。しかし、近年の水産業をとりまく環境は厳しく、これに対処するため、本年度も生産基盤である漁港の整備を重点に、漁場改良造成事業及び栽培漁業

育成、特に、船形漁協の水揚荷捌施設を整備し流通処理を円滑にし、また、東京湾を主漁場とするまき網漁船の操業安全のため、リーダー機器装備に対し助成を行い、漁業経営の安定と水産業の振興をはかります。このため、八千六百万余円を予算計上いたしました。

次に、商業について申し上げます。経済社会の発展に伴い、地域商業をとりまく環境の変化は著しいものがあります。この変化に対応し地域産業機能を十分發揮できるように地域ぐるみの商業近代化が求められております。昨年から計画が進められている商工会館の建設は、地域内商工業の総合的な改善発展に資するとともに、具体的な調査、研究、指導等広い活動の場でありますので、この会館の建設に対して、初年度として一千万円を助成し、商業の振興を図ってまいります。

次に、大型小売店舗の出店についてであります。近年における経済環境の変化を背景として、大企業が中小企業分野に進出、あるいは、大型小売店舗の新増設等、地元小売業との競争が増加し、かつ深刻化しております。こうした現状の中で、たとえ法定基準面積未満であってもその規模において、地元小売業者に相当大きな影響を与えると思われるので、商業環境を十分配慮し、消費者の保護とともに地元小売業者との競争を未然に防止し、かつ調和のとれた商業の発展に寄与できるよう大型店出店指導要綱を制定し、調整を図ってまいる所存であります。

次に、観光であります。従来一季型観光地でありました館山市も、花つみ園をはじめとして城山つつじ、あるいは地曳網等、よりやく多季型観光地へと脱皮をすることができ、その内容も次

第に定着しつつあります。しかし、気候あるいは地勢、特に、海に恵まれた地域として、憩の場となる海岸線の見直しを図ることは、観光客体開発の上で欠くことのできない問題でありますので、特に、本年度二百八十万円を予算計上し、コンサルタントの意見を徴し、自然との調和を十分配慮した観光館山の飛躍に役立ててまいりたいと存じます。

以上の施策を中心として、昭和五十三年度一般会計予算の編成を行った結果、歳入歳出予算の総額は六十一億三千七百万余円で前年度当初予算に対し、九億一千六百万余円の増額となり、一七・六%の伸長率となっております。

次に、歳入予算の内訳について申し上げます。

まず、歳入の大宗をなす市税については、明年度の経済の動向及び地方税制改正による増減等を勘案して、二十三億二千四百万余円を計上、前年対比三億一千百万余円の増、構成比は三七・八七%であります。地方譲与税七千八百万余円、娯楽施設利用税交付金三千六百万円、自動車取得税交付金六千六百万余円、国有提供施設等所在市町村助成交付金四千二百万円、地方交付税十一億円、構成比一七・九二%、交通安全対策特別交付金一千二百万余円、分担金及び負担金七千七百万余円、使用料及び手数料一億六千万余円、国庫支出金十二億二千万余円、構成比一九・八九%、県支出金二億一千三百万余円、財産収入八百万余円、寄付金一千九百万余円、繰入金三百万余円、諸収入二億四百万余円、市債五億八千四百万余円をそれぞれ計上いたしました。特に、地方交付税と市債につきましては、国が、地方財政対策として、昭和五十三年度の地方財源不足見込額三兆五百億円について、地方交付税を一兆

七千億円増額、残り一兆三千五百億円は、建設地方債の増発により補てんするため、伸びを見込んだものであり、そのほかにつきましては、前年度の実績等により積算いたしたものであります。

次に、歳出予算の内訳について申し上げます。

まず、歳出予算の性質別についてであります。人件費は、二十億三千三百万円、構成比三三・一四%、物件費四億五千五百万円、構成比七・四三%、扶助費十億一千八百万円、構成比一六・六%、普通建設事業費十五億四千万円、構成比二五・〇九%、公債費三億四千五百万円、構成比五・六四%、補助費等五億三千万円、構成比八・六六%、その他二億一千百万円となっております。

以下、各款別についてその概要を申し上げます。

第一款、議会費は、議会運営に要する経費として、一億一千八百九十万余円、前年対比一千九百三十万余円の増となっております。

第二款、総務費は、八億二千四百二十万余円、前年対比八千五百万円の減となっておりますが、これは、前年まで安房郡市広域市町村圏事務組合負担金を企画費に一括計上いたしておりましたが、本年度から目的別に各科目に計上したための減でございます。総務費の内容は、一般管理費、文書広報費、企画費、交通、防災、防犯関係費、徴税費、戸籍関係費、選挙費等が主なものでございます。本年度執行予定の選挙は、農業委員会委員選挙が五十二年七月、館山市長選挙が五十三年十一月に予定され、千葉県知事及び県議会議員選挙が明年四月初旬に予定されますので、その準備事務費を計上してございます。

第三款、民生費は、十三億六千万円で、前年対比一億九千三十万余円の増となっております。その内容は、社会福祉費、老人福祉費、児童福祉費、生活保護費であり、医療費、保育単価及び保護単価等の引き上げによる増が主なるものでございます。また、昨年度から、地域ぐるみ福祉活動のモデル地区として指定を受け、目下組織づくりを行っておりますが、各種の自主的な地域ぐるみの福祉活動を推進し、地域住民の福祉の増進を図るため、三百七十万円を計上し、また、高額療養費の貸付制度の新設、低所得者の生活緊急融資対策として、社会福祉協議会へ原資の補助、奨学資金貸付額の引き上げ、老人大学の開設誘致、私立保育園運営費の補助、戦後三十三年に当たり戦没者の追悼式を執行する費用等も計上いたしました。

第四款、衛生費は、五億八千五百万円で、前年対比は五千九十万円の増となっております。保健衛生費として、零歳から六歳までの乳幼児医療給付金、インフルエンザ等予防接種、結核、がん等の検診事業費等を計上いたしました。また、本年度新たに、保健婦関係費について、従来国保特別会計で負担しておりましたが、国保税軽減の一助として、一般会計衛生費に計上いたしました。ごみ、し尿等清掃費については、老朽処理施設の補修整備費、処理場用地選定準備のため、あるいは、関係住民の視察旅費、ごみ埋立処理費、排水路清掃費、環境保全公社出資金等を計上いたしました。

第五款、労働費は、六百五十万余円、前年対比二百万余円の増となっております。主なるものは、勤労者厚生対策預託金五百万円、勤労者団体補助金百二十万円等でございますが、千葉県労働金庫への預託額を増額し、市内勤労者に対する住宅、就学、生活

資金等の融資の円滑化により、利用者の福利厚生を増進を図るため計上いたしました。

第六款、農林水産業費は、二億三千九百二十万余円、前年対比は二千五十万余円の減となっております。これは、前年において農業構造改善事業、布沼農道舗装工事、緊急粗飼料基盤整備費等、特別なもの予算計上があったためでございます。農林費の主なもの、野菜生産団地育成補助金、畜産公害対策事業補助金、農道舗装工事調査委託料、農業用施設等補修原材料、小規模土地改良事業補助金等を計上いたしました。水産業費の主なもの、水産増殖事業補助金、漁業近代化施設設置補助金、漁業操業安全施設事業補助金、水産振興補助金、市営漁港改良費、県営漁港修築負担金等を計上いたしました。

第七款、商工費は、一億二千九百五十万余円、前年対比二千四百五十万余円の増となっております。商工振興費の主なもの、中小企業融資預託金、館山商工会議所建設補助金等計上いたしました。また、観光費については、海水浴場関係費を中心に、観光協会補助金等を計上いたしました。

第八款、土木費は、六億六千九百六十万余円、前年対比一億四千八百八十万余円の増となっております。道路橋梁関係費は、道路維持費、新設改良費、橋梁架換、河川懸岸費等を主とし、港湾関係費、また、都市計画事業費に県に要望してありました仮称館山運動公園の整備負担金、下水路工事費等を計上いたしました。また、住宅費に、那古市営住宅の木造老朽化建物を鉄筋四階建に改築する事業費等を計上いたしました。

第九款、消防費は、二億五千四百三十万余円、前年対比一億九

千七百五十万余円の増となっておりますが、これは、目的別に計上することにした広域圏事務組合負担金の消防関係費を計上したためでございます。非常備消防費中、消防団員等の報酬及び費用弁償については、近隣市町村と比較し待遇面でたち遅れておりましたので、増額し計上いたしました。消防施設整備費には、防火水槽大基、詰所新築工事費、中型消防自動車三台分を計上いたしました。

第十款、教育費は、十五億九千二百三十万余円、前年対比は、三億六千五百十万余円の増となっております。本年度も、義務教育施設整備に重点をおき、小学校関係建設費に、那古小学校第二期防音改築、北条小学校増築、館野小学校改築、九重小学校体育館改築、館山小学校プール建設、館野小学校用地購入等計上いたしました。中学校関係費には、西坪中学校第一期防音改築、房南中学校プール建設等計上いたしました。幼稚園関係費には、館野幼稚園改築費等計上いたしました。社会教育関係は、館山城跡及び国分寺跡発掘調査費、那古寺多宝塔保存修理補助金、市民センター消防設備費等計上いたしました。保健体育関係に、市民体育館新築工事費、市民運動場の芝植工事費等計上いたしました。

第十一款、災害復旧費は三百万円、これは農道等の災害復旧資材購入費として計上いたしました。

第十二款、公債費は、三億四千五百九十万余円計上いたしました。諸支出金、予備費として、一千二百三十万余円を計上いたしました。

以上で、一般会計当初予算に計上した概要を申し上げましたが、

今後の補正財源見込みとして、特別交付税、前年度繰越金、市債等があります。これらは、し尿処理場関係費、公共事業等の追加に伴う財源に、また、職員給与改訂について、当初予算計上が、五万でありましたので、人事院勧告が上回った場合、並びに当初予算できなかった事務事業等の財源として充ちたいと考えております。

次に、地方債でございますが、館野小学校校舎改築事業債外十六件、また、財政資金の一時的不足に備えて、一時借入金の高限度額を四億円と定めることいたしました。

以上が、議案第三号の概要でございますが、次に、議案第四号から順次その概要を申し上げます。

まず、議案第四号昭和五十三年度館山市国民健康保険特別会計予算について申し上げます。

国保事業につきましては、十四億一千万余円を計上いたしました。が、本年度も医療給付費は増徴の傾向にあり、本年二月一日から平均九・六%の医療費の改訂が行われ、加えて医療技術の進歩により高度の医療が行われるようになりまして、これによる自然増、また受診割合等を考慮しながら積算いたしました。国保税については、特定財源を適正に把握しながら、計上いたしました。が、本年度の本算定時点までは、なお流動的な要素もございますのでその時点で十分な検討を加え、住民の負担軽減を図る考えでございます。

次に、議案第五号昭和五十三年度館山市と畜場特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ九百八十二万余円を計上いたしました。

議案第六号昭和五十三年度館山市国民宿舎特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ六千五百三十七万余円計上いたしました。

議案第七号昭和五十三年度館山市ユースホステル特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ一千七百七十万円を計上いたしました。

議案第八号昭和五十三年度館山市学童災害共済事業特別会計予算でございますが、歳入歳出それぞれ百七十四万余円を計上いたしました。

議案第九号昭和五十三年度館山市水道事業特別会計予算でございますが、収益的収入三億五千三百三十四万二千円、資本的収入六千九百九十万一千円、収入合計四億二千三百二十四万三千円、これに対し、収益的支出三億九千三百六十八万九千円、資本的支出六千九百九十万一千円、支出合計四億六千三百五十九万円をそれぞれ計上いたしました。本年度事業の主なるものは、真倉浄水場の改良工事と配水管の増設工事、また、水道未設置地区の水源調査費を計上いたしました。

次に、一般議案の提案理由についてご説明いたします。

まず、議案第十号館山市行政組織条例の制定についてでございますが、現行の館山市部課設置条例を廃止して、社会情勢に即応した行政組織、また、複雑多様化する事務処理の合理化及び住民サービスの向上を図るため、館山市行政組織条例を新たに制定し、本年四月一日から施行しようとするものであります。

次に、議案第十一号館山市職員給与条例等の一部を改正する条例の制定についてでございますが、これは、前述のとおり行政組織

の改正による部等の設置に伴い、職員の職務の等級の分類及び格付を改める必要から、職員給与条例、旅費に関する条例等の一部改正を行い、併せて非常勤特別職の職員に係る報酬についても、県下各市の均衡を配慮して報酬額の一部改訂を行おうとするものであります。

次に、議案第十二号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは、近隣市町村との均衡を配慮するとともに、市民の生命、財産を守り、日夜活躍している消防団員の労に応えるため、団員の報酬の額を改正しようとするものであります。

次に、議案第十三号館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定についてであります。昭和四十九年四月、見舞金額の改正以来すえ置いていた見舞金を、今回増額しようとするもので、罹災者の早期更生の意欲を促進し、併せて、市民福祉の向上を図るものであります。

次に、議案第十四号館山市国民年金印紙購入基金の設置及び管理に関する条例の制定についてであります。国民年金の印紙売りさばき代金の取り扱いについて、新たに基金を設置して国民年金事務の円滑な運用を図ろうとするものであります。

次に、議案第十五号館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例の制定についてであります。市民の体力づくりの増進とスポーツの振興を目的とした社会体育施設の設置及び管理に關し必要な事項を定めるもので、従来これら関係条例は、各施設ごとに制定されていましたが、今回市民運動場の建設に伴い各施設を包含した条例に整備し一本化を図るため、新たに制定しようとするものであります。

るものであります。なお、これら施設を維持管理していく上において、各施設一貫した使用料を定めようとするものであります。

次に、議案第十六号館山市民生資金貸付条例を廃止する条例の制定についてであります。昭和四十年から低所得世帯に対する資金の貸付制度として制定されたものでありますが、利用状況は非常に低く、貸付額、貸付利率等、現時点では実情にそぐわない点もあり、また、公の制度で貸付を実施するには、種々の制約を受けること等を勘案して、昭和五十二年度限りで、民生資金の貸付を廃止しようとするものであります。今後の低所得世帯の融資対策としては、社会福祉協議会において貸付制度を整備し、住民の需要に対応していくものであります。

次に、議案第十七号館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定についてであります。現行の奨学資金制度に大学入学金支度金の貸付制度を新たに設けるとともに、奨学資金の貸付額を引き上げ、修学の機会を容易にしようとするものであります。

次に、議案第十八号損害賠償の額の決定についてであります。正木衛生処理場内において、公務中じん芥収集車により接触し、損害を与えた事故に係る損害賠償について協議が整いましたのでこれが額の決定につきまして議会の議決を求めようとするものであります。

次に、議案第十九号字の区域及び名称の変更についてであります。これは、農業構造改善事業の一環として、土地改良法第九十六条の二の規定により、館山市大字小沼の区域内の字の区域、及び名称を変更しようとするものであります。

次に、議案第二十号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条

例の一部を改正する条例の制定についてであります。これは、住宅使用料の納付方法を口座振替制度の途を開くものの外、昭和五十二年度に建設された市営住宅十戸を、地方自治法第二百四十四条の二の規定により、別表中に追加しようとするものであります。

次に、議案第二十一号市道路線の認定についてであります。道路法第八条第二項の規定に基づき、市道干潟線外一路線を市道として認定しようとするものであります。

次に、議案第二十二号市道路線の変更についてであります。道路法第十条第二項の規定に基づき、市道路線を変更しようとするもので、市営住宅内の道路の延長の変更、また、道路改良工事に伴っての市道の延長及び幅員の変更を生じました市道安東水岡二号線外九路線を変更しようとするものであります。

次に、議案第二十三号昭和五十二年度館山市一般会計補正予算第三号であります。歳入歳出それぞれ一億六千三十五万三千円を追加し、総額五十九億七千二百六十六万六千円とするものであります。

歳出追加の主なものは、本間前市長のご遺族から、奨学資金として寄付のありました五百万円と、その他を合せ奨学資金積立金六百二十万一千円、国民年金印紙購入基金設置のための繰出金三千万円、受診率の増加と医療費の引き上げ等に伴う老人医療費一千三百四十四万四千円、生活扶助費一千一百一十七万七千円、造成計画の変更に伴う緊急粗飼料等増産基盤整備事業委託料一千三百八十三万六千円、教育環境の整備を図るため、小、中学校の児童、生徒の机、椅子購入費一千二百六十万円、農林省から借用している

船形小学校用地購入費八百八十五万九千円、現在借入中の地方債について、将来の公債費負担の軽減を図るため、利率の高いものについて繰り上げ償還するための元金償還金一億三千五百二十八万円、昭和四十六年度及び昭和四十九年度に財政調整のため土地開発基金から繰替運用した資金の繰り戻し金三千九百三十六万一千円等でございます。また、歳出予算の更正減としまして、地方債利子及び一時借入金利子で六千二百五十四万九千円、小、中学校校舎等の建設費で一千六百五十三万円が減額の大きなものであり、これら補正財源と、国、県支出金、地方債、特別地方交付税等をもって充当するものであります。

なお、この外に地方債並びに債務負担行為の補正があります。議案第二十四号館山市国民健康保険特別会計補正予算第一号でございますが、歳入歳出それぞれ四千九百二十五万三千円を追加し、総額十二億四千四百三十三万九千円とするもので、この主なものは、人件費九十一万円の減額、保険給付費の診療報酬二千三百七十一万一千円の追加でございます。この財源として、国、県補助金一千三百六十三万四千円外を一般財源より充当いたします。

なお、歳入の国保税について、四千四百万円の減額更正をいたします。

議案第二十五号館山市国民宿舍特別会計補正予算第二号でございますが、歳入歳出それぞれ百五十六万二千円を追加し、総額六千五百九十九万八千円とするもので、この主なものは、人件費七十七万一千円、賄材料費百二十七万六千円、光熱水費四十六万二千円の追加でございます。この財源は、事業収入をもって充当いたします。

以上が、今回提案いたしました議案の概要であります。なお、この際当面する諸問題について報告申し上げます。

まず、し尿処理場の建設でございますが、当初予定いたしました上真倉地区の用地につきましては、地域住民の強力な反対により、まことに残念ではあります。断念せざるを得ない状況に立ち至ったのであります。このような事情を踏まえて、二度と同じ轍を踏まないよう、前回の経験を生かし、あらかじめ関係者となる程度の了解を得たいということで努力いたしております。残念ながら現段階では時期的にいつということはまだ申し上げられませんが、現処理場の老朽化等を勘案いたしますと早期解決を必要といたしますので、これら解決に向けて一層の努力をいたしてまいります。

また、ごみ処理施設につきましても老朽化が甚だしく、これを建設を急がねばならない状況にあります。し尿処理施設が解決次第準備にかかりたいと考えております。

次に、公共下水道につきましては、近年の生活様式の近代化に伴いまして、浄化槽等の普及が著しい今日、その必要性、重要性は、論をまたないところでありますので、当市といたしまして、建設省第四次下水道整備五ヶ年計画に要望をいたしておりますが、これが計画を進めるにあたりましては、土地利用等の問題、あるいは財政面での問題、また、市民の理解と協力がなければできないことでありますので、これらの問題を十分検討しながら逐次進めてまいりたいと考えております。

次に、中学校の統合問題について申し上げます。現在の中学校は、三学級の学校、三十学級の学校と規模の大小が極めてアンバ

ランスな状況になっております。これに伴う教育効果の格差是正を目指し、文部省の示す適正規模の学校に再編成するため学校統合の推進に努めております。これにより市内七中学校が四中学校に再編成され、地域連帯感の涵養、施設の整備充実も推進されますので、昨年来、この問題に対し、PTA及び関係地区民の方々と協議を重ねてまいりました。しかしながら、館山高校の移転時期が、当初計画より遅れることが明らかになりましたので、現在統合年度を慎重に検討中でございます。

次に、国道一二七号バイパス建設問題でございますが、ご承知のとおり国の事業として実施されるもので、建設に当たって種々調査研究をされており、本年度から那古地区の県営市場整備地区内の道路用地五百五十米について買収が行われることになっております。市といたしましては、今後調査研究結果が反映される基本設計に対し、住民サイドに立って国と再度協議を重ね調整を図りながら、館山バイパス建設を促進してまいりたいと考えております。

次に、コミュニティ会館の建設でございますが、今後コミュニティづくりを推進していく上において市の役割は、市民施設の充実を図ることです。この施設は市民生活の多様化、高度化に対応しながら、幼児から老人に至る生涯教育の場、また、今後文化的余暇利用の増大に伴う時代の要請に対応しうるものとして実現しなくてはならないと考えております。中央公民館、婦人会館、勤労青少年ホーム、総合健康センター等を包括した建物の建設について本年度調査研究し、五十四年度設計、五十五年度建設を目的に会館建設に努力してまいりたいと考えております。

次に、内房線複線化でありますが、現在君津駅まで複線それ以南は単線のままとされており、県におきましては、新総合五カ年計画の中で部分複線化の促進が取り上げられておりますが、当市の振興発展には道路網の整備と共に鉄道網の整備が急務であります。現在、富津、館山間の沿線関係市町村ではすでに全線複線化についての搬運も高まっておりますので、これを機に、千葉県知事を中心とする内房線複線化促進期成同盟の結成を図り、関係機関に強力な運動をしてまいりたいと考えております。

最後に、水田利用再編成対策について申し上げます。

我が国における米の過剰基調は、一層強まっている一方、必要な農産物の生産が停滞しているため、需要の動向に即応して、国では転作による水田利用の再編成を求めています。当市におきましても、この対策の実施に当たりましては、国の方針に従い農業生産者、及び関係農業団体と十分協議の上、これが対策に処してまいりたいと考えております。

以上、私の所信とこのたび提案いたしました案件の概要を説明いたしますとともに、当面の諸問題について報告いたしました。が詳細につきましては、ご質問に応じ私、又は、事務担当者からお答えいたしたいと存じます。よろしくご審議くださるようお願いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 以上で市長の施政方針並びに議案の提案理由の説明を終わります。

延

会 午前十一時 延会

○議長（吉田勇治郎君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明三月四日から七日まで議案調査のため休会、次会は三月八日午前十時開会とし、その議事は通告による行政一般質問を行います。

○本日の会議に付した事件

一、会議録署名議員の指名

一、会期の決定

一、会議日程の決定

一、議案第二十七号

一、議案第三号乃至議案第二十六号

（施政方針並びに提案理由の説明）

